

災害教訓の継承に関する専門調査会報告書原案

「1888 磐梯山噴火」

災害教訓小委員会「磐梯山噴火」分科会執筆担当と概要

1章：どのような災害であったのか（磐梯山噴火の特徴 中村委員）

1.1節：磐梯山（概要や特徴、おもな地名などの紹介）

位置（会津盆地，猪苗代湖，裏磐梯の村落，中ノ湯など）

水系と地形（長瀬川，琵琶沢，沼ノ平，翁島）

火山体（大磐梯，小磐梯，櫛ヶ峰，赤埴山）

1.2節：火山としての磐梯山

形成史（火山活動の歴史，過去の岩なだれ等の紹介）

有史時代での噴火活動（記録に残った活動とその概要）

最近の活動状況（火山性地震の発生）と噴気などの現況

1.3節：1888年の噴火と災害

前兆（噴火前の約1週間で発生した現象）

噴火経過（噴火開始から終息までの経過）

噴火現象と災害（降灰，岩塊放出，爆風・サージ，岩なだれとそれらで発生した被害状況）

1.4節：噴火後の災害

火山泥流・土石流（噴火後の裏磐梯地域での水系変化や湖沼の形成経過，発生した泥流による被害状況）

（火山噴火災害での位置づけなど巻頭言となるもの 伊藤委員）

2章：災害に関する一般的な事項について

2.1節：時代背景、行政、防災体制はどのようなものであったのか

時代背景（北原委員）

行政について、当時の行政対応がどのようなものであったか、特に災害対策（被害軽減に向けての対応など）を中心に既往文献を参考として記述。（松井委員）

2.2節：災害の被害はどのようなものであったのか（佐藤委員）

1888年の磐梯山噴火による被害について、現在の行政区に対応させて、被害状況をデータで表現するだけでなく、当時の地元住民の肉声が届くようなもの。

基本となる資料は「磐梯山噴火百周年記念誌」で、この冊子刊行後のデータを洗い出し、今回発見された磐梯山の噴火直後の写真も入れて、新しい資料も掲載。

2.3節：災害に対してどのような応急・復旧対応が行われ、どのような効果があったのか

2.4節：災害後、どのような復興対応が行われ、どのような効果があったのか

3，4節まとめて北原委員

2.5節：災害はどのような社会変革をもたらしたのか

2.6節：災害に関してどのような伝承があるのか

3章：災害種別特有の事項について

3.1節：災害に関する詳細事項

火山災害を長期化させ、復興を妨げる大きな要因の一つとして、噴火により生じた膨大な量の土砂の再移動がある。移動形態は降雨、斜面、河道の水理特性などにより、異なる。既往文献における、土砂移動現象に関する記述を地図上にわかりやすく、表現することを試みる。（可能であれば、断面変化などについても表現）

（松井委員）

3.2節：過去の同種災害の発生状況、その後の措置、効果等

2000年の磐梯山の火山活動における地元の対応

一日に400回を超える火山性地震が発生し、臨時火山情報が出された際の地元自治体の対応の問題点を洗い出し、今後の火山防災の参考にする。（佐藤委員）

2000年に発生した磐梯山の火山性地震等の経過、1888年噴火前の異常現象等との対比、気象庁の執った措置、社会へのインパクト、今後の課題等を記述。（西出委員）

4章：新たに存在が確認された写真について

1. 噴火直後の被災状況がわかる新たな写真の発見と解析

当分科会の調査の過程で新たにその存在が確認された写真について、撮影の経緯、写真から読みとれる新たな知見について記述（鎌田委員）

災害概略シート

付録：参考文献・用語解説・資料等データ・巻頭写真